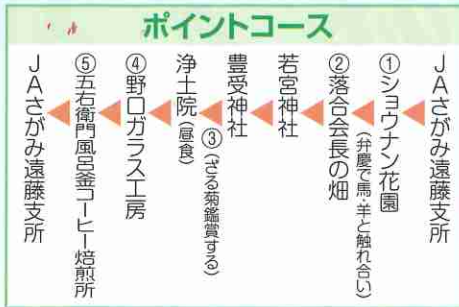


第3回 ぶら〜り御所見!

ふるさと発見ウォーキング
〜菖蒲沢地区〜

令和元年11月10日(日) 今年も秋晴れに恵まれ、菖蒲沢方面のウォーキングを開催しました。総勢75名で道程約6kmをぶらりと歩き、日頃の運動不足も解消され、秋の清々しい空気も多いに味わいました。

シヨウナン花園でランの花を鑑賞。弁慶で馬や羊と子どもたちが触れ合い、落合会長の畑でさつま芋、大根掘りを楽しみました。若宮神社、豊受神社を訪ね、途中さる菊も鑑賞することが出来ました。浄土院で昼食をとり、野口ガラス工房、五右衛門風呂釜コーヒー焙煎所の見学をしました。



参加者からは「距離もちょうどよかった。」「見どころが多く自然の中のウォーキングが楽しかった。」「お土産も沢山あり嬉しかった。」「などの感想が寄せられました。」



御所見の良さを市内や近隣の人々に広めたい、ふるさとの再発見につとめていきたいという、まちづくり推進協議会の活動方針に基づき、来年も内容豊かなウォーキングを企画したいと考えております。



視察研修

「三浦地域資源ユース」他



編集委員(広報情報部会)

部長・瀬郷	椎野美子
用田	伊東京子
宮原	高橋春美
葛原	高橋和子
打原	奥山淑志子
宮北	市川ふみ江
富田	きく江

1月23日(木) 御所見まちづくり推進協議会は、三浦市から公共事業委託を受けて平成22年から本格稼働した三浦地域資源ユース(株)のバイオマスセンターなどを視察しました。

一般廃棄物(し尿・浄化槽汚泥) 農水産残渣、産業廃棄物(公共下水道汚泥)の各処理を行う施設建設(建設費17億円)とシステムについて、及び処理の副産物として発生するエネルギー(メタンガス)で、お湯や電気をつくり出し、野菜クズより堆肥を製造し、農地に還元する資源の有効活用に変換が持てました。

その後まぐろの加工所見学と漁師の奥さん達の食堂でまぐろ丼を頂きました。午後は、三浦市農協で目安として300坪で1000本の大根を生産販売する等、土地を最大限に利用し、他県や外国へも販路を拡張している現状をお聞きしました。

三浦市は、漁業・農業・観光業が盛んですが、以前と比較して、停滞している状況にあり、「活性化の必要性」と「地域再成計画のバイオマスタウン構想」の2つを目的として資源ユース(株)の設立に到ったということでした。



耕作放棄地対策講演会

「荒れた農地をどう利用する?」



令和元年8月19日(月) 御所見市民センターにおいて、玉川大学農学部の中村純教授による講演会が行われました。

中村先生は玉川大学ミツバチ科学研究センターでミツバチを活用した耕作放棄地のお花畑化プロジェクトを推進されており、今回はその活用事例についてお話ししていただきました。

市から農業水産課、農業委員会、地区からは、まちづくり推進協議会、郷土づくり推進会議、社会福祉協議会等の参加がありました。講演会の概要は次のとおりです。

◎減る農地、増える耕作放棄地 荒廃農地

耕作放棄地とは以前耕地であったもので、過去一年以上作物を栽培せず、この数年のうち再び耕作する予定のない土地のことで、放棄期間が長くなると荒廃農地になる。年々耕地面積が減り耕作放棄地が増えている状況。国も2025年までに

4万5千ヘクタールの荒廃農地を再生する事業を行ったが、実施実績は目標を下回り、2018年度にこの事業は終了。荒廃農地再生は進んでいない状況である。

なぜ耕作放棄地が増えるかというと、耕作する人がいなくなるから、このまま耕作農地が減っていく。今後我々の食べるものはどうなるのか。そこで、耕作放棄地を減らす対策の一例として、耕作放棄地のお花畑化を進めてはどうか。

◎耕作放棄地をどう使うか

耕作放棄地で花を栽培し、養蜂資源に変えるという方法がある。養蜂家にとって、春はいろいろな花が咲いており問題ないが、夏に良い花がない。そこで夏から秋にかけて咲く花を耕作放棄地に植え、養蜂家が蜂蜜を採取する。耕作放棄地になると地力がどんどん下がっていくので、そこをお花畑とし、養蜂資源化することにより景観上の美化、地力の維持向上、地域の活性化になり農業振興に結びつくことができる。よいと考ええる。

◎花畑化の有効性

農地周辺に「花の生け垣」を作ると送粉者(蝶



や虫などの増、害虫の天敵の増等農業の生産性が向上する。また、宿根草の草原で囲むことにより、土壌の流出防止、土壌栄養保持、鳥獣虫害の低減が期待できる。また、お花畑から他の作物に転用することも容易にできる。

◎主な質疑応答

農地を今後も続けていくための環境作りの必要性、農家の後継ぎ対策といった質問があり、次のようなお答えをいただきました。

- ・農業したい人と耕作できない人を結びつける組織が地域で必要。
- ・市場で求められている作物は何かよく調査し、それに合う農作物を生産する。
- ・地域の子どもたちに、農業の体験をする機会をつくることにより、彼らが大人になったときに職業選択の一つになるかもしれない。
- ・近くの農業高校や大学の農学部生たちに農家の生活を実際に体験してもらおう。

◎まとめ

今回の講演を聞いて、耕作放棄地を活用する方法のひとつとして、市や農協、農業委員会等に協力していただきながらレンゲや樹木などが咲く環境を更に広げていくことで、養蜂業などの可能性を見出だせるのではないかと思います。



歩みつづける御所見！



～自然と調和した潤いのある心なごむまち御所見～



〈用田〉
花桃

〈3月下旬～
4月上旬頃〉



宮原ブルーベリー摘み取り農園

開園から好評頂いているブルーベリー摘み取りができます。今年も無農薬で安心な甘くて美味しいブルーベリーが育っていますので是非ご家族揃ってお出掛け下さい。

開園日時：7月19日～8月30日

日・水・金曜日 9:00～12:00

入園料：300円 販売価格：100g200円

〈令和元年度の実績〉

入場者数	収穫量	開園日数
1058名	477kg	18日



宮原耕地検討委員会 お問い合わせ
090-2738-5225 西山



〈打戻〉
彼岸花

〈9月下旬頃〉



用田商栄会年間行事

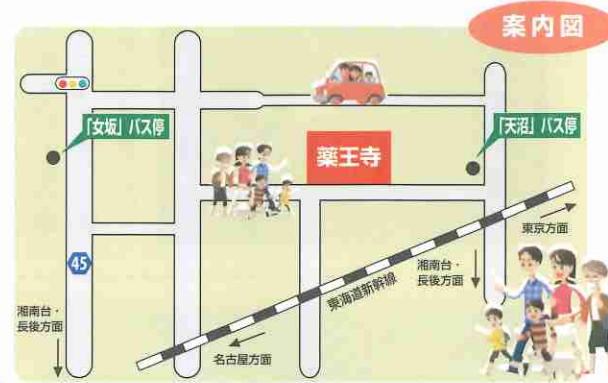
- ◎ 7月上旬……中元大売り出し
- ◎ 8月下旬……金魚すくい選手権大会
- ◎ 9月上旬……用田神社祭礼 模擬店出店
- ◎ 12月上旬……歳末大売り出し

ごしよみ-な



火曜日…JAさがみ御所見支店
土曜日…御所見市民センター
9:30～13:00

御所見花桃の咲く町女坂



戸中橋線

令和2年度中完成予定



カワセミ
(撮影：目久尻川)

宮原百石線

事業に着手

遠藤笹窪緑地

遠藤笹窪緑地については、優れた風致景観及び動植物の生息地として保全するため、特別緑地保全地区に指定しました。
また、谷戸底の一部では、地域活性化に資する施設として、雨天時の浸水被害を軽減する遊水機能を有した都市公園を整備しています。

新産業の森

新産業の森北部地区（青く囲まれた部分）の北側に隣接する新産業の森第二地区（赤く囲まれた部分）では、現在の市街化調整区域から市街化区域への編入に向けた、まちづくりの準備を進めています。
本地区の北約4kmに設置される東名高速道路（仮称）綾瀬スマートインターチェンジについては、令和3年夏頃を開通目標として工事が順次進められています。

健康と文化の森

慶応義塾大学の東側エリアでは、現在の市街化調整区域から市街化区域への編入に向け、地権者と定期的に協議会を開催し、まちづくりの検討を進めています。